

カキの低樹高ジョイント仕立てによる 早期成園化と省力・軽労化

果樹部

1 背景、目的

本県は栽培面積で全国第2位のカキ産地ですが、カキ栽培では、苗木を植え付けてから樹が成長して一定の収量が得られるまでに長い年月がかかることや、樹が高いため脚立を使った高所の管理作業が多いことが問題となっています。

そこで、ナシで開発された早期成園化が可能な樹体ジョイント仕立てを改良し、カキの早期成園化および省力・軽労化が可能な仕立て方を開発しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 新たに開発したカキ低樹高ジョイント仕立ては、長さ2 m程度の1年生苗を先端を切り返さずにそのまま用いて、株間1 m、列間3 mの間隔で定植し、主枝の高さを60 cmとして先端を水平に倒し、定植と同時に隣接樹と樹体ジョイントします(図1)。
- 2) 低樹高ジョイント仕立ては、従来の立ち木仕立てと比べて果実品質の差はなく定植3年目から成園並の10 a 当たり約2 tの収量が得られます(表1、一部データ略)。
- 3) 低樹高ジョイント仕立ては、着果位置が低いため管理作業に脚立が不要で、摘蕾、摘果、収穫の合計作業時間は、従来の立ち木仕立ての約半分になります(表2)。
- 4) 低樹高化に伴い晩霜害や獣害を受けやすくなるので、対策が必要です。
- 5) 低樹高ジョイント仕立て導入に当たっては、開園時に棚の架設費(10 a 当たり33~45万円程度:施工費込み)が必要になります。

3 主要なデータなど

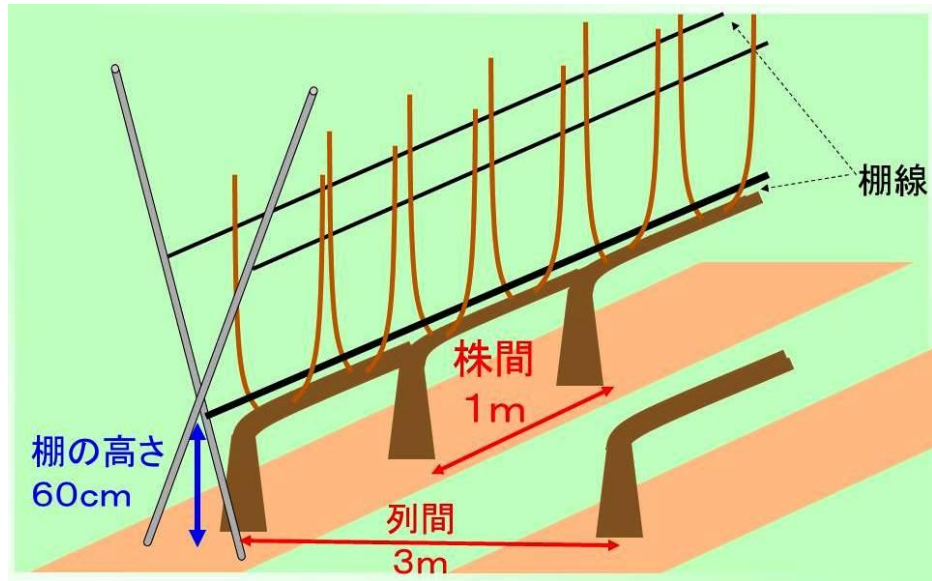


図1 カキの低樹高ジョイント仕立ての基本骨格（模式図）

表1 カキの仕立て法の違いと収量（平成24～25年）

仕立て法	10a 当たり 栽植本数 (本)	10a 当たり換算収量(kg/10a)		
		H24	H25	累計
低樹高ジョイント	333	1,952	2,191	4,144
立ち木	111	286	913	1,199

注) 供試品種:「太秋」、平成24年時点で定植3年目(樹齢:4年生)。

表2 カキの仕立て法の違いと着果位置および作業性（平成25年）

仕立て法	平均着果 位置 (cm)	脚立使用 割合 (%)	10a 当たり作業時間(時間)			
			摘蕾	摘果	収穫	合計
低樹高ジョイント	130	0.0	8.0	3.6	14.3	25.9
立ち木	245	85.5	13.5	9.0	25.5	48.0

注) 1. 供試品種:「太秋」、低樹高ジョイントが5年生、立ち木が高接15年生。
2. 作業者(男性、身長174cm)。